

本日の例会（第2266回）

平成28年10月25日(火)

予 定 行 事



★卓 話 「職場見学親睦家族旅行」（職業奉仕委員会、親睦活動委員会）

—— 淡路島 パソナチャレンジファームin淡路（農業見学）
のじまスコラ（廃校利用見学とイタリア料理）

〈スケジュール〉 13:15 ヒルトン大阪発 貸切バスにて
15:00 パソナチャレンジファームin淡路 見学
（淡路市野島常盤954-2）

16:00 のじまスコラ 廃校利用見学（野島墓浦843）

17:00 " イタリア料理レストランにて夕食
～19:30頃

21:00 ヒルトン大阪帰着

国際ロータリー第2660地区 松本ガバナー講演より

【2016-17年度RI会長方針】

改めまして、2016-17年度RI会長テーマは、“Rotary Serving Humanity” 一人類に奉仕するロータリー—であります。

これは、「『人類への奉仕』という大きな目標に向け、リーダーシップを持ちうる会員を増やし、ポリオ撲滅をはじめ『世界でよいことをする』ため伝統を継承しよう。」という意味であります。

また、国際協議会で強調されたことが3点あります。

第一に、2016-17年度はロータリー財団100周年の記念すべき年にあたることでした。

第二に、2018年のポリオ撲滅目標年を控え、ポリオ撲滅についても強い言及がありました。

最後に、会員増強であります。ロータリー精神を有し、リーダーシップを兼ね備えた人材を必要とする。とのことであります。当方も全てを具体的目標に組み入れ、運営の要として参ります。

【本会議場看板】

この国際協議会の本会議場であるメインホールに掲げられた看板は従来“Enter to learn, Go forth to serve”「入って学び、出でて奉仕せよ」でありましたが、3年前より“JOIN LEADERS, EXCHANGE IDEAS, TAKE ACTION”となっております。より自発的そして、活発なロータリー活動が求められていると感じた次第であります。

【記憶により残る方法】

2008年の会長エレクトセミナー時に戸田パストガバナーから「記憶に留めるより良い方法」として「聞いただけでは20%、見ただけでは30%の理解が、見て聞いた結果は50%になる」と講義を受けました。

(裏面につづく)



次回例会のお知らせ [第2267回・平成28年11月1日(火)]

★卓話予定

・テーマ：「地元伝統文化の将来」

・卓話者：西ノ内猛宏 会員

★定例理事会⑤ 13:45～ 事務局にて（理事会構成メンバー）

★お食事はミニ会席料理です。

★例会場 4F 金山華の間

前回例会(第2265・10月18日(火))の報告

- ・来客紹介 4名
(2660地区内 2名・地区外 0名・ゲスト 2名)
- ・出席報告

	9月27日	10月4日	10月11日	10月18日
会員総数	46名	46名	46名	46名
出席免除会員数	14名	14名	14名	14名
欠席会員数 (内、出席免除会員数)	14名 (4名)	13名 (6名)	16名 (6名)	12名 (6名)
出席率	78.57%	82.50%	75.00%	85.00%
修正出席率 (メークアップ数)	90.48% (5名)	95.00% (5名)	—	—

会員名	ニコニコ事由
隅防 武司	= 1カ年皆出席
古市 仁	= ラッキーカード当選
”	= 6カ月連続になりました。
尾下 千明	= ラッキーカード当選
出席会員	= ガバナーをお迎えして。
瀬田川昭俊	= 先週11日の例会、理事会を出張の為に欠席しました。ご関係各位に陳謝致します。
阿江 秀典	= 隅防よしゆきさん、お誕生日おめでとうございます。今年もシャンパンタワーやっちゃいましたね!!
隅防 嘉之	= 阿江さん、昨日はお世話になりました。
三宅 有	= SAAに声をかけられて。

・ラッキーくじ

賞品名 『全国デパート共通商品券』
 賞品提供者 田中 潤治 会員
 当選者 富島 俊治 会員
 阿江 秀典 会員
 参加者数 16名

・卓話

テーマ「ガバナー講演」
 卓話者
 国際ロータリー第2660地区ガバナー
 松本 進也 氏



井上 寛基 地区幹事
 松本 進也 ガバナー

(表面のつづき)

ご講義の中で「知識や概念を出来るだけ多く記憶に留まるよう助長するために、情報の提供方法を考慮しなければならない」という教えが大変印象的でありましたので、当方も今後、補助手段として紙媒体を使用いたします。本日の内容は、貴クラブの活動計画書や週報にてご覧頂きますようお願いいたします。

【2016-17年度 第2660地区ガバナー方針】

さて、先程申しましたRI会長テーマを受け、第2660地区2016-17年度ガバナー方針を“The Ideal of service”-ロータリーの根幹精神-と決めました。当該方針はロータリーの目的(以前は綱領と呼称)の第三項にも記載されています。

1920年、東京に我が国最初のロータリークラブを設立した米山梅吉氏は、The Ideal of service”の日本語訳の際、「奉仕の理念」ではなく、敢えて「サービスの理念」とされました。

日本語の「奉仕」は自己犠牲の意味合いがあまりにも強く、“service”の本来の意味と合致しないからです。日本のロータリークラブの祖である米山氏の意を汲み、当方も原語をガバナー方針に採用した次第です。

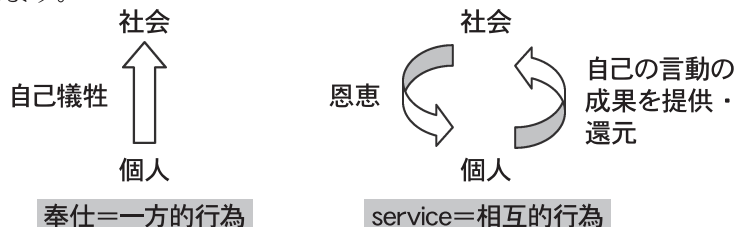
この「奉仕」と“service”の違いにつきまして、図にてご説明いたします。

*奉仕 = 一方的行為

矢印は個人から社会への一方向のみで、日本語では自己犠牲の意味合いが大きいです。

*service = 相互的行為

矢印は個人と社会を循環しています。個人から社会へは「自己の成果を提供・還元」し、結果、社会から個人へ「恩恵」が供給されます。



この図式をロータリー活動の際、常に当てはめて考えて頂きます様、周知をお願い申し上げます。(つづく)

『Rotary Quiz』



《前回の答え》 Q.8 福島喜三次 Q.9 × (米山 梅吉) Q.10 ○ Q.11 × (毎年開催) Q.12 2人 Q.13 24コ